

教えるから 共に学ぶへ ⑪-2

今治市立菊間中学校
担任 土井 翔司

お忙しい中、人権・同和教育参観日に対するご感想をいただき、誠にありがとうございました。授業で取り上げた「ヘイトスピーチ」や、差別に向き合うご自身の姿勢、子どもたちの考える姿勢などへのご意見やご感想がたくさんありました。ご家庭での道德教育の様子もうかがえ、大変心強くも感じました。以下、みなさまからのご感想を一部紹介します。今後とも、子どもたちの道德心を伸ばしていけるような授業づくりのため、ご協力・お力添えを、よろしくお願いいたします。

ヘイトスピーチという言葉さえ今まで知りませんでした。子どもたちが学ぶことを自分も学ぶことができました。社会的問題であり、身近でもあることと思います。一人一人が多様性を尊重し、誰もが安心して暮らせる社会を築くために、ヘイトスピーチを根絶していく必要があると思います。

ヘイトスピーチを初めて知ったという人が大半だったと思います。まず知ることが大事で、なくすためにどうしたらいいかたくさんの意見が出ていました。本当に小さなことから差別をなくすための行動ができたらしいと思いました。

参観日に参加できなかったのですが、プリントをきっかけに「ヘイト」という言葉を調べました。そして、「ヘイト」という言葉を深く知るきっかけにもなりました。まずは、しっかり知り、理解し行動することが大切だと思うので、とても良いきっかけになったと思います。

その人を見ずに、国籍、人種、肌の色など本人にはどうすることもできない要素を見て判断するのは幼稚なことだと思います。一部悪い人がいるとは思いますが、それは日本人も犯罪をしてしまう人がいるようにどこにでもあります。枠組みで判断するのではなく、その人を見るくせをつけたいものです。ほとんどのことは、その人がどんな人か知る上で関係ないことが多いものです。

差別をしたらだめ、と子どもたちにも教えていますが、自分自身もきちんとできているかなと考えてしまいます。小さいことから、できることから、がまず大切。相手の人としての違いを認める、言葉に気を付ける、などから、子どもと一緒に考え行動していこうと思いました。

とても興味深く考えさせられる授業でした。血気盛んな子どもたちは喜びや感動を深く感じる良き年頃とともにヘイトな感情をいつでも持ち合わせる可能性があることを親として痛感し、起こる前に自分自身の感情コントロールや知識を深めていく大切さを感じさせてもらいました。子どもたちだけではなく親の私たちも自分と向き合い、気を付けていきたいと感じました。

子どもたちはちゃんと差別をなくしていく方法を知っているんだと感じました。大人たちは偏見を伝えないことが大切だと思うので、注意していこうと思います。様々な人と接する機会を持ち、違いを理解し、自分の中にある思い込みに気付き、相手の立場に立って考えること、どれも大切なことだなと感じました。